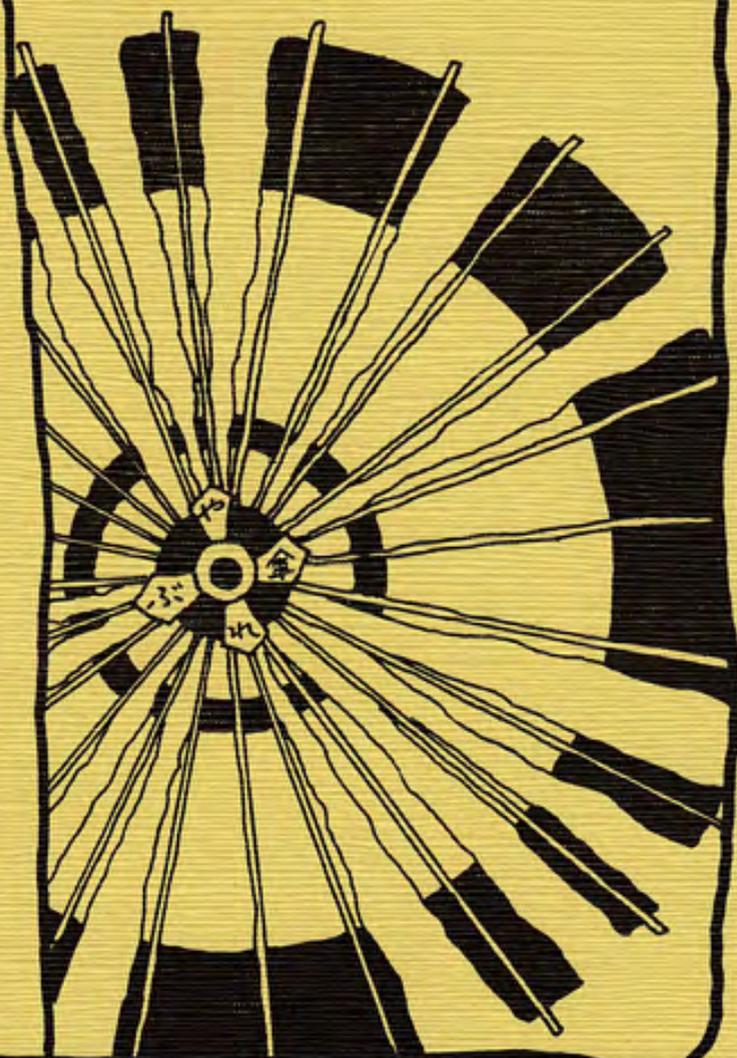


やぶれ傘



一〇七号

二〇一九年四月

木の匂ふ果箱の下をとほりけり 根橋宏次

初蝶は広報板のうしろより 大島英昭

コンテナに少し離れて土筆摘む きくちきみえ

階段に似顔絵描きの日向ほこ 廣瀬雅男

蜂蜜に白木の小匙スイートピー 青谷小枝

側溝の急流京の春の水 丑久保 勲

畦焼きの火勢見てゐる消防士 瀬島洒望

河原へは石の階段草青む 渡邊孝彦

蜂蜜は壺からとろり杏子散る 藤井美晴

電線に風のぶつかる白木蓮 天野美登里

伊予柑の残り半分ラップして 小山よる

鳴きながら猫のうろつく春隣 白石正躬

二階建てバスの座席へ春一番 安藤久美子

春祭り幕のすき間に手を振る児 秋山信行

烟るやうなミモザの花の下に猫 有賀昌子

抄 集 句 傘 ね ぶ や
選 夫 紀 崎 大

夜目白くまあるく香る沈丁花 松村光典

七階の窓より豆をまきにけり 鈴木昌子

人の手に両手で渡す露の蓋 中島和子

木に熟すみかん食べてはまた採る子 貫井照子

散りし梅汲みあげてゆく水車かな 橋本美代

こはこはと初孫を抱く大旦 広瀬 濟

春隣和紙のやうなる昼の月 武藤節子

裏山の枝垂桜が地に触れて 安齋正蔵

秩父路は春細打ちのとろろ蕎麦 泉 一九

芽吹く野に牛の集まる昼餉時 稲田延子

露のたう活けて咲かせてみたりして 奥田温子

おむすびを買うておまけのふきのたう 倉澤節子

金縷梅の貧しき花も形見かな 黒澤次郎

古伊万里の小さき井木の芽和へ 齋藤朋子

立ち去るに長靴で踏む畔火かな 眞田忠雄

種付花

大崎紀夫

休漁の朝のストーブ囲みある
魚干す網棚近く黄水仙
からす鳴く種付花は田に咲いて
春昼の球審マスクとつて立つ
川に亀鳴き亀ばかり釣れてくる

日の暮れのベンチが見ゆる梅の花
きりぎしの下の日向にすみれ咲く
鳶の巣は和田浦漁港裏山に
日の暮れが海にきてゐる花菜漬
鶏小屋に鶏の羽ばたき夕桜
亀が鳴き坊主が木魚叩きゐる
靴脱いで珈琲を飲む目借時

巢箱

根橋宏次

吊革を見上げてゐる子冬ぬくし
コピー紙のまぶしさ魚は氷に上り
ちよつとそこまでがどんどん犬ふぐり
紅梅の日向を人の入れ替はる
改札のぱかんと開いて山笑ふ
縛られし屋台の並ぶ柳の芽
招き猫横にずらして紙雛
豆の花漁師の地所をとほり抜け
新潟へ近付いてゆく雪解川
木の匂ふ巢箱の下をとほりけり

初蝶

大島英昭

寒き夜のうたかたの夢足が吊り
梅含みたるとうしろに告げにけり
初蝶は広報板のうしろより
亀の棲むあたりに藻草生ひにけり
パンジーと野菜目医者のレストラン
さへづりは古墳を登り詰めるまで
漬け物のにほふ漬け物工場春
二丁目の稲荷の前に沈丁花
切り岸の上に日のある花辛夷
春塵の溜まりし滑り台滑る

土 筆

きくちきみえ

弱火へと変へて人待つおでん鍋
ありさうなところにある薄氷
そこここといふほどに咲く犬ふぐり
最終となりたる電車待つ臙
鳶のこゑ磯巾着は口を開け
草餅の売り切れていて桜餅
草餅を選ぶとみれば選びをり
椀に入る馬刀貝のみな横並び
草萌えの土手を真つ直ぐ上りけり
コンテナに少し離れて土筆摘む

日向ぼこ

廣瀬雅男

階段に似顔絵描きの日向ぼこ
夜の雨のいつしか雪となりにけり
岸辺より川の暮れゆく猫柳
花ひとつ咲かせ盆梅売られをり
でこぼこの畦でこぼこに草青む
膝ほどの高さ初蝶飛びゆけり
やはらかに昼の風吹く木の芽かな
雨雲の割れて日の差すミモザかな
禅寺に経のこゑ聞く花辛夷
アメ横誉ぶらりと抜ける春の昼

蜂 蜜

青谷小枝

大寒の風抜けて行くプラタナス
暖房の低き捻りを読書室
ざわざわと雨のこぼれて紅椿
すぐ海へ出る川挟み山笑ふ
春 曙 十 七 日 の 月 高 く
空に風メタセコイアに懸り凧
空 淡く濁れりミモザ揺れに揺れ
積まれたる漁網の乾び豆の花
岬鼻の風に四五本花大根
蜂蜜に白木の小匙スイートピー

早梅

丑久保勲

ビル工事の手旗信号雪催
春を待つ机の上をまつさらに
境内のラジオ体操梅ぼつり
早梅や音楽室でラッパ鳴る
待ち合はすホテルロビーの壺の梅
女坂に手相観のゐる梅の花
春炬燵に乗つて蛍光灯を替へ
途切れなく連なる車山笑ふ
醤油一滴ばかり開きし蛤へ
側溝の急流京の春の水

畦 焼 き

瀬 島 酒 望

松明ける見世物小屋は引き払ひ
吊り革にぶらさがる子が咳をして
ゆりかもめ水上バスの水脈に降り
土管から水が小川へ猫柳
畦焼きの火勢見てゐる消防士
川ふたつ合はさる土手に蓬摘む
物干しに洗濯挟み柿芽吹く
船着き場に板が数枚葦の角
たらの芽を揚げて塩振り土佐の酒
菱餅を模したるゼリー雛段に

草青む

渡邊孝彦

立春の夜空に千切れ雲ばかり
石段の石の付け根に草青む
膨らまず縮まず泡流れ春
夜の梅スポーツジムはガラス張り
河原へは石の階段草青む
水嵩の少ない川の春の鴨
切株の淡雪消えぬまま暮れる
暖かや擬木の椅子に一休み
横殴りの雨が春田の土塊に
ご先祖に供へし彼岸餅つまむ

船
船

藤井美晴

インク壺冷たし飯の炊ける音
日が当たる出窓のレース黄水仙
蜂蜜は壺からとろり杏子散る
居酒屋の壁にモナリザ花菜漬
乾きたる田に下りて聞く揚げ雲雀
秩父よりとふ駅頭の草餅屋
手ぬぐひを干す春昼の船
陸橋の鉄の手摺の暖かき
きりもなや人形が吹くしゃぼんだま
捨て船の木の竜骨のかげろへる

白木蓮

天野美登里

風船の影の落ち来る滑り台
電線に風のぶつかる白木蓮
春昼の口に一粒金平糖
春昼の空に烏とヘリコプター
遊歩道の板に継ぎ目や野火にほふ
麦の芽の畑を近くに車窓から
早春の狛犬の舌乾びぬる
白魚や水のこぼるる四手網
春の夜の日付の変はる頃に雨
湖に出て長けしぺんべん草とあふ

伊予柑

小山よる

伊予柑の残り半分ラップして
春浅きテレビの裏にある埃
昨日より傷は小さく春灯
真夜中にバーガーかじる余寒かな
春浅し捨てる予定のペン試す
春の雨産毛の髭の撫で心地
カーテンの隙間に春の暁が
春疾風生きてゐるかにタオル揺れ
春の風邪外で物音したやうな
紅躑躅辞めし会社をふと思ふ

春 隣

白石正躬

鳴きながら猫のうろつく春隣
手を伸べる各々の眼に焚火の火
川沿ひの夕日の空の冷たさよ
春立つ日鳥の鳴き声ひとしきり
山菜萸の若木に初の花がつき
春北風渡船は岸に繋がりにて
梅の咲く二股の径左手へ
窓に見る雨降る中の梅の花
川下の筑波山（つくば）のあたり春の月
シヤボン玉吹けばちりぢり士手下る

春一番

安藤久美子

もう晴れてお出かけ日和花ミモザ
二階建てバスの座席へ春一番
山笑ふ我が家の庭も笑ふかに
うららかや見知らぬ同士バスを待つ
雪柳雀がどつと川べりに
春休み子供の声のレストラン
花馬酔木房を揺らすはそれぞれに
ぺんぺん草賑やかすぎる程の数
最終話ばかり三月押し詰まる
春の宵エンドロールに眼の覚むる

春祭り

秋山信行

初護摩や老師のたぐる袖の先
節分や吊燈籠に灯の点る
春祭り幕のすき間に手を振る児
独り乗り出来し幼子春夕焼
種袋そろへてよりの思案かな
受験子の隣る雨戸をそつと開け
叱られしあの日のとほく蜆汁
お百度の春泥に足取られつつ
鶯や川瀬に架かる丸木橋
山ざくら貴船へくだる路ひとつ

ミモザの花

有賀昌子

烟るやうなミモザの花の下に猫
竹林に揺れる木洩れ日うらうらと
蔵の苧あらはな茶房沈丁花
神田川羽ばたいてゐる残り鴨
春昼の生垣越しに話しごゑ
干し物に日向のほひ黄水仙
いま落ちし白い椿を手のひらに
三月の数字上向き歩数計
雛壇の隅にちよこんと縫ひぐるみ
薄氷の解けて昼月残りけり

春風

松村光典

手袋が両手並んで落ちてゐる
鈴懸も幹の皮脱ぎ春を待つ
夜目白くまあるく香る沈丁花
春なれやカフェのテラスのにぎはつて
銀杏の芽ぷくぷく萌えてゐたりけり
チチチチチ頬白が鳴くチチチチチ
見上げれば桜に蕾菜種梅雨
春疾風自転車置き場総倒し
春風に背中押さるるかに歩く
春風に洗濯物がそよぎをり

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(木)	PM 7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	PM 6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(火)	AM 9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM 6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	18日(土)	PM 2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM 10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM 2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM 10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	3日(月)	PM 7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	4日(火)	AM 9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	4日(火)	PM 6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM 10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM 6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	15日(土)	PM 2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM 10:00	吟行会(下記注)	井の頭公園	丑久保 勲
	22日(土)	AM 10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM 2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHKは5月31日(金)に変更。

6月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR吉祥寺駅公園口(南口)改札を出たところ。句会場は吉祥寺西コミセン。駅より徒歩15分。バスもあります。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856